



いのち

令和元年9月21日（土）開催

グローバル化や高度情報化の進展、少子高齢社会の到来など、現代は変化が激しく先行き不透明な時代となっています。こんな混沌とした「いま」をいかにして生きるべきかについて、自らの経験やエピソードもまじえながら、示唆に富むお話をさせていただきました。「これからの生き方の指針になった」「自分の在り方、考え方を見直す機会となった」など、多くの受講者から先生の講演を絶賛する感想を寄せていただきました。

なお、本講座では、手話通訳及び要約筆記を導入していますが、受講者からは「障がいの有無にかかわらず、分かり易くよかった」と大変好評でした。（受講者数91人）

<研修内容>

講義 「今ここをどう生きる～勅題『光』によせて～」

講師 無量寺東堂・愛知専門尼僧堂堂長 青山 俊董 老師



受講者アンケートから

- 「深く生きる」ことについて、豊かなご経験からご示唆いただき、心が満たされ、少し豊かになった気がした。「どれだけ生きたかよりも、どう生きたか」「場所に関わらずどう生きるか」「いまをどう生きるか」が大切だと諭され、心に落ちた。
- 私という一部分に常にこだわり続けている自分を痛感します。死刑囚に送られた3つの言葉、とても身にしみました。時々思い出し、自分に言い聞かせ、「いま、ここの一瞬で精いっぱい生きること」を大切にしたいと思います。
- 自分の立場を変えて、すべて自分事として考えることが大切であること。現代の「自分さえ良ければ」の考え方を、どのようにとらえるかについての答えがあるような気がする。
- 不平不満だらけの自分の生き方を少しでも改めたい。すべてのものを受け入れ、全てのものに感謝して生きたいが、実際は煩惱だらけ。それでも、「いま、ここ」を大事にしたい。